



11

山

山

山

山

E-1888

0129

亞細亞局
機密第一八七號

昭和七年三月二十四日

在奉天

總領事代理 森島 守

外務大臣 芳澤 謙吉 殿

亞細亞局分室

了 扣

大凌河集團農場ニ關スル件

奉天省錦縣大凌河所在樺太在郷軍人集團農場代表者増田金之助ヨリ同
農場建設ニ至ル迄ノ經路ニ付別紙寫ノ通上申書ヲ提出シ來レルニ付何
等御參考迄ニ右報告申進ス

本信寫送付先 在滿各領

分類

上 申 書

大凌河集團農場建設ニ至ル迄ノ經路左ニ奉上申候

大凌河驛北方參千米突蔡定氏所有ノ地ヲ本年三月十五日混成第三十八

旅團長依田閣下ヲ經テ帝國ニ寄附サレ當集團移民ニ附與セラレタルト

コロノ經路ハ大略左ノ事情ニ因ルモノナリ

一、蔡定氏ノ財産ハ約二十年前蔡家墳墓守一族ノ爲蔡家ノ財産ヲ横領セ

ラレタルコト

二、爾後蔡定氏ハ横領サレタル所有地及財産全部ヲ支那官憲ニ對シ返還

訴訟ヲ起シタルコト

三、支那官憲ハ墳墓守一族ノ贈賄ニ對シ蔡定氏ヲ壓迫シ返還訴訟決セス

爲ニ蔡定氏ハ邦人ノ援助ヲ希望シ之レカ訴訟ヲ繼續シ來リシモ邦人

E-1888

0:30

等ハ支那官憲ニ蔡定氏ノ希望ヲ實現シ得スニ終レリ
昭和七年三月二十二日
備區域トナリ此間平佐二郎吉川協ノ盡力ニヨリ蔡定氏ハ墳墓守ノ逃
亡後十八年振リニテ實家ノ全權ヲ支配スルニ至レリ
依テ皇軍ノ出動帝國ノ對滿蒙政策カ蔡氏ノ復興トナリ帝國ニ對スル報
恩ノ意味ヲ以テ吉川協、平佐二郎ニ計リ依田旅團長閣下ニ對シ所有地
ノ内約六百町歩餘ヲ在郷軍人集團移民ノタメニ寄附スルニ至レリ依田
閣下ハ平佐二郎ヲシテ増田金之助ニ計リ模範農場トシテ在郷軍人ノ先
驅トナリ滿蒙新興國家ノ一戰ニソノ範ヲ示スヘク別紙寫ノ通り書狀ヲ
下サレタリ

蔡定氏カ平佐二郎、吉川協、中村林助ヲシテ依田閣下ヲ經テ帝國ニ寄

附
振セル上申書別紙寫ノ通

依ツテ本年ノ播種期ニ間ニ合スヘク移民團ノ建設ヲ代表者増田金之助
ニ於テ全力ヲ傾注シ既ニ樺太ヲ出發セルモノ三十戸ニ及ヒ來ル四月末
迄ニハ五十戸ノ招來ヲ達成スヘク萬事ノ手配ヲ完了セリ

以上

昭和七年三月二十二日

奉天省錦縣大凌河

樺太在郷軍人集團農場

代表者 増田 金之助 印

奉天總領事殿

今回滿洲國ノ建設ヲ記念トシテ蔡女ヨリ帝國ニ農場ヲ寄附セラルルニ當
リ増田氏ノ主催スル移民團五拾家族ハ遠ク樺太ヨリ新興滿洲國ニ渡リ大
凌河邊ニ理想的農場ヲ開拓スルノ雄圖ヲ企畫セラレタルハ本職ノ眞ニ欣
快トシ邦家^ホ爲深甚ナル敬意ヲ表スル所ナリ冀クハ克ク主催者ノ指導ニ
遵ヒ一致協力軍人精神ヲ發揮シ困苦缺乏ニ堪エ萬難ヲ排シ以テ本壯舉ノ
完成ニ力メ日本帝國在郷軍人ノ名ヲ辱カシメサルト共ニ蔡女ノ好意ヲ烏
有ニ歸セシムルカ如キコト勿ランコトヲ茲ニ些カ所懷ヲ述ヘテ成功ヲ祈
ル

昭和七年三月十五日

混成第三十八旅團長

陸軍少將 依田 四郎 印

大凌河集團農場各位

別紙之通希望致候ニ付可然御々取計被成下度奉願候

昭和七年三月十二日

蔡 定 氏 印

吉 川 協 印

中 村 林 助 印

平 佐 二 郎 殿

上 申 書 寫

本籍地 奉天省錦縣大凌河甸子

蔡 定 氏

私 儀

民國元年以來大凌河蔡家墳墓守一族ヲ相手トシテ墓地及附屬耕地其他ノ財產ヲ押領セラレ居ルモノニ付爾來爭議ヲ續行シ來リシモ解決セサリシカ今般日本軍憲ノ御援助ニヨリテ今度該墓地及耕作地ノ返還ヲ受ケタルハ衷心感拜ニ堪ヘス仍テ皇軍ニ對シ聊カ微意ヲ表スル爲メ大日本在郷軍人ノ永住耕作紀念トシテ總面積ノ十分之二分五厘ヲ無償獻呈致シ度仍而代理後見人吉川協中村林助儀連署ヲ以テ右上申仕候幸ニ微衷御嘉納ノ榮ヲ賜リ度右様願候也

大同元年三月十三日

本人 蔡 定 氏 印

後見人 吉 川 協 助 印

同 中 村 林 助 印

錦縣警備司令官

陸軍少將 依田四郎閣下

亞細亞局
機密第一九八號

昭和七年三月三十日

在奉天

總領事代理 森島守

外務大臣 芳澤謙吉 殿

亞細亞局



昭和七年四月四日 接受

(分類E43.1.18)

大凌河集團農場ニ關スル件

本件ニ關シテハ三月廿四日附機密第一八七號拙信報告ノ次第ナル處廿九日
同農場代表増田金之助當館ヲ來訪シ諸員ニ對シ本年度事業計畫ニ關シ大要
左記ノ通り語りタル趣ナリ
尙他面奉天警察ノ情報ニ依レハ同農場從來ノ經緯ニ按スレハ事業達成上頗
ル困難アリ容易ニ事業ノ進展ヲ見ルコト能ハサルヘキ模様ナリ右何等御參

考迄報告申進ス

記

一、同農場ニ從事スヘキ樺太在郷軍人會員ノ總數ハ五十戸五十名(當分
一戸一名ニ限定スト云フ)ニシテ既ニ三月廿八日迄ニ奉天ニ到着セ
ルモノハ惠須取分會員二十名ニシテ又現ニ樺太ヲ出發シ來奉ノ途中
ニ在ル者十名アリ尙四月三日及七日ノ兩日ニ出發ノ豫定ナルモノハ
知取分會員十名ニシテ豊原分會員ニ屬スル十名出發期ハ未定ナリト
ニ該農場地域内ニハ今尙一部支那人ノ小作中ニ係ル土地アリ右ハ來年
度ヨリ取上ケ移民團ニ於テ耕作スル等ナルカ該農場ハ主トシテ畑作
ニ適スルヲ以テ差當リ本年ハ各種ノ野菜類ヲ栽培シテ軍隊ニ納ムル
コトトシ一部水田可能地ニ對シテハ附近ノ小川ヲ利用シ水稻ノ試作
ヲナシ爾餘ノ土地ニ對シテハ從來ノ高粱、大豆等ヲ耕作スル方針ニ

シテ漸次事業ノ擴張發展ニ努ムル筈ナリ
本信寫送附先、在滯各領

亞細亞局
關東高等三四三一號ノ二

昭和七年三月三十一日



關東廳警務局長

拓務次官
外務次官
樺太監官
股股股

大凌河畔ニ於ケル邦人水田經營計畫ニ關スル件
一乘會樺太支部長

増田金之助

右者泰山線大凌河附近ニ約六百町歩ノ土地ヲ占メ日本人農民ノ集團的
移民計畫ヲ樹テ先發隊トシテ三月二十三日六名ヲ該地方ニ派遣シ續イ

分類

テ本月末十家族ヲ四月初旬ニ五十家族ヲ何レモ樺太在住一乘會員ヲ
中心トスル農民ヲ轉住セシムル豫定ニシテ差當リ農具並播種等諸經費
金五千圓ヲ投シ漸次農園ヲ組織シ低利資金ノ借入其他種々考究中ナリ
ト稱シ居レルガ該所要土地入手ノ經路ハ表面左記ノ如キ形式ヲ採リ居
レルモ該土地ハ當時其ノ管理人タリシ杜某カ惡心ヲ起シ地条ヲ横領シ
タル爲地主タル蔡定氏トノ間ニ既往十八年間ニ亘ル繁爭中ノモノニ係
リ其間杜某ハ官憲ニ對シ多額ノ賄賂ヲ贈リ爲メニ訴訟ノ結果ハ杜某ノ
勝訴トナリシヲ以テ蔡定氏ハ遂ニ住所ヲ引揚ケ昨秋迄奉天附屬地ニ詭
住居ヲナシ居タリシ處我軍ノ遼西出動ニ際シ杜某ハ北平方面ニ逃走シ
タル爲其ノ機ニ乘シ邦人吉川協及中村林助等ハ蔡定氏ヲ擁シテ其ノ住
所タル大凌河甸子ニ赴キ今日ニ至リタルモノニシテ該土地ニ關シテハ
將來相當ノ紛擾ハ免レサルモノト思料セラルアリ

右ノ如キ實情ヲ軍部側ハ未タ詳知セサルモノノ如ク奉天憲兵隊ニ於
テ目下之カ實情調査中ノモノナリト
斯クノ如キ不確實ノ土地ニ對シ拵角多年苦心ノ下ニ築キ上ケタル地盤
ヲ引揚轉住スルハ聊カ早計ノ嫌ナキ能ハス該當農民ヲ轉住ニハ相當深
慮ヲ煩ハスヲ要アリト認メラル爲念

記

經營者ト稱スル樺太居住増田金之助ハ在東京高須陸軍豫備少將ヨリテ
添書ヲ携ヘ三月三日來奉天在住豫備步兵大尉平佐二郎ト面接シ平佐
ノ盡力ニ依リ該土地ヲ入手シタル由ナルカ其ノ經路ハ別紙第一號寫ノ
如ク蔡定氏並ニ之カ後見人ト稱スル吉川協及中村林助等ノ連名ニテ依
田旅團長宛提供方上申シタル處旅團長ハ之カ提供ヲ受クルモ軍ニ於テ
ノ耕作不能ナリトシテ別紙第二號寫ノ如ク増田外四十九家族ニ提供ス

ヘシトノ一書ヲ與ヘタルモノナリト云フ

別紙第一編

別紙ノ通希望致シ候ニ付可然御取計被成下度奉願候

昭和七年三月十七日

蔡 定 氏
吉 川 協
中 村 林 助

平 佐 二 郎 殿

E-1888



上 申 書

本籍 奉天省錦縣太凌河甸子

蔡 定 氏

私儀

民國元年以來大凌河蔡家坟墓守一族ヲ相手トシテ墓地及附屬耕地其他ノ財産ヲ押領セラレ居ルモノニ付爾來爭議ヲ續行シ來リシモ解決セザリシカ今般日本軍憲ノ御援助ニ依リテ今度該墓地及耕作地ノ返還ヲ受ケタルハ衷心感拜ニ堪ヘス仍テ皇軍ニ對シ聊カ微意ヲ表スル爲メニ大日本在郷軍人ノ永住耕作紀念トシテ總面積ノ十分ノ二分五厘ヲ無償獻呈致度仍テ代理後見人吉川協、中村林助儀連署ヲ以テ右上申仕候幸ニ微衷御嘉諒御嘉納ノ榮ヲ賜度右奉懇願候也

大同元年三月十三日

本人 蔡 定 氏

後見人 吉 川 協

同 中 村 林 助

錦縣警備司令官

陸軍少將 依 田 四 郎 閣 下

別紙第二號

今回滿洲國建設ヲ紀念トシテ、蔡女ヨリ帝國ニ農場ヲ寄附セラルルニ當
リ、増田氏ノ主催スル移民團五十家族ハ遠ク樺太ヨリ新興滿洲國ニ渡リ
大凌河邊ニ理想的農場ヲ開拓スルノ雄圖ヲ企畫セラレタルハ本職ノ眞
ニ欣快トシ、邦家ノ爲メ深甚ナル敬意ヲ表スル所ナリ。冀クハ克ク主催者
ノ指導ニ遵ヒ一段協力軍人精神ヲ發揮シ、困苦缺乏ニ堪ヘ萬難ヲ排シ以
テ本壯舉ノ完成ニ力メ、日本帝國在郷軍人ノ名ヲ辱カシメサルト共ニ蔡
女ノ好意ヲ烏有ニ歸セシメルカ如キコト勿ランコトヲ茲ニ些力所懷ヲ
述ヘテ成功ヲ祈ル

昭和七年三月十五日

混成第三十八旅團長陸軍少將 依田 四郎

大凌河集團農場各位

E-1888

0139

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

細亞局
機密第二七五號

昭和七年四月二十二日

在奉天

總領事代理 森島守人

通商局

外務大臣 芳澤謙吉 殿

別紙添附

7.5.12

大湊河集團農場ニ關スル件

本件ニ關シテハ三月三十日附機密第一九八號拙信報告ノ次第アル處其後奉
天警察ノ情報ニ依レハ本件土地ノ所有者ト認メラルヘキ支那人杜鴻章ナル
者當地居住邦人薦田夏治郎ヲ來奉シ自己ノ所有地ヲ日本人ニ讓收セラレタ
リト訴ヘタルニヨリ薦田ハ正義擁護ノ爲メ之カ解決ヲ引受ケタリト稱シ別

縣署
分類

紙ノ如キ大湊河土地問題ノ真相ト題スル印刷物ヲ作成シ依田旅團長ニ面會
ノ爲メ本月二十一日朝當地發奉山線ニテ錦州ニ向ヘル趣ナリ
右報告申進ス

本信寫送附先 在滿各領並錦州

E-1888

0140

大凌河土地問題ノ真相

同	同	同	同	同	同	關係人	本人	蔡定氏
同	同	同	同	同	同	願	間	平佐二郎
同	同	同	同	同	同	後見人		吉川協
同	同	同	同	同	同			中村林助
同	同	同	同	同	同			大久保清一郎
同	同	同	同	同	同			川崎市藏
同	同	同	同	同	同			喜野常雄

大凌河土地問題ハ多數日本人ノ同地蔡込ト相待ツテ今ヤ重大ナル時局問題トシテ社會的ニ取扱ハレムトシテキル之カ歸趨ノ如何ハ皇軍ノ正義ト新國家ノ王道政治ノ上ニ重大ナル關係ヲ及ボサントシツツアリ。又同時ニ現ニ被害ヲ受ケツツアル同地方民ノ死活問題トシテ全クノ眞劍沙汰トシテ多大ノ暗雲ヲ發生セシメツツアルモノナリ。

元來蔡定氏ハ舊清國時代ノ八旗族ニシテ清朝初期已ニ所謂問題ノ土地錦縣大凌河地方ニ領土ヲ有シ舊封建制度上ノ特權ヲ與ヘラレ居タル事ハ恰モ日本ニ於ケル舊幕時代ノ武士ノ所領ノ如キ地位ニアリタルモノニシテ現在蔡定^派一^派提示シツツアル憑據書類ノ唯一ナルモノデアリ此ノ種憑據書類ニヨル所有權ハ認めラレザルコトニ確定セラレ居ルモノナリ、然シテ同地駐在ノ我カ官憲方面ニ於テモ之ノ證據書類ヲ以テ有效視セルモノノ如ク其ノ證査トシテ現ニ毎日汽車ノ着ク毎ニ日本人ノ此ノ土地ヲ目標ニ同地ニ赴クモノニ對シテモ何等阻止ノ舉ニ出テス、ノミナラス寧ロ某有力筋ニ於テ移民ノ^増加ヲ慫慂シテキルカ如キ感ヲ抱カシメツツアル。カクシテ同地ノ住民ハ今正ニ戰々^洶々ノ裡ニ焦燥シツツアルノ狀況ナリ。此ノ土地問題ハ日本人移民ノ増加ニツレテ益々解決ヲ複雑化セシメ延イ

テハ單ナル滿洲國內ノ一民事事件ノ性質ヨリ更ニ各種ノ重大ナル問題ヲ惹起セムトシツツアルモノテアル。

吾人ハ何故ニ當局者ニ於テカカル物議アル土地ニ對シテ移民ヲ今暫ラク中止シ繫争ノ解決ヲ待ツノ舉ニ出テサルヤヲ疑ハシメルモノテアル、蔡定氏一派ト杜鴻章一派トノ訴訟ハ充分審議シ盡サレ已ニ二十年來争ヒシ事件ニシテ已ニ中華民國最高法院タル大理院ニ於テ結審ヲ見、民國四年十二月三十日附ヲ以テ杜鴻章ノ勝訴トナリ居ルモノテアルニモ拘ラス此回ノ事變ヲ巧ニ利用シテ杜家一族ヲ放逐シタル重大事件テアル。

本件直接ノ關係事項トシテハ前述ノ如ク已ニ民國最高法院タル大理院ノ判決ニ於テ杜家一派ノ勝訴トナレル所ニシテ現滿洲國ニ於テモ認メラルヘキ判決ナリ、何トナレハ滿洲國獨立當初ニ於テ已ニ各種ノ法令公布ニ

際シ特ニ否認セサル法律ハ舊法律ヲ適用スル旨公布シ居レハナリ。

先年張作霖時代奉天省單行法トシテ舊封建時代ノ特權的所有權ヲ處理スル爲メ奉天全省清條局ナル一官制ヲ公布シテ逆産ヲ處分セシ事アリタルモ杜家ノ所有地ハ杜家ノ所有權ヲ認メラレ何等ノ處分ヲ受ケザリシモノナリ此ノ制度ハ學良時代トナリテ民國十八年廢廳トナリタリ、當時ノ支那官憲ニ於テモ最早此種ノ問題ナキモノトシテ制度ヲ廢止セシモノナリ、斯ノ如ク明白ナル問題ニ對シテ何故ニ現在ノ如キ亂雜ナル事態ヲ惹起セシカ、之ニハ前記關係諸氏ニ於テ蔡定一派ヲ支持シシカモ次ノ如キ不法ヲ敢行セルニ基因スルモノナリ。(特ニ某方面ノ關係事項ハ記述セサルコトトスル)

蔡定一派ノ巧ナル作戰ハ調査スレハスル程其大膽ニシテ且ツ細心ナルニ

驚カサレヲ得ナイ。

其ノ真相ハ實ハコウテアル。昨年十二月十八日皇軍カ兵匪肅清ノ爲メニ
同地ニ行動セル際杜家一族カ主人一人ヲ殘シテ避難セリ、越エテ本年一
月九日ニ到リ蔡定一派ハ好機至レリトナシ杜家一派ヲ伏魔殿ナリト稱シ
多數ノ銃器ヲ藏セリト訴エ皇軍二十餘名ヲ案内シ特ニ平佐二郎氏ハ豫備
將校ナルヲ以テ軍服ヲ着用シテ先頭ニ立テテ向導シ杜家一派ノ家宅ヲ搜
索セシモ銃器ハ僅カニ一挺出テシノミナリ滿洲ノ地ニ於テ農家ニ銃器ノ
一挺位アルコトハ何等アヤシムニ足ラサルコトナリ皇軍ハ其ノ儘引揚ケ
タルモ蔡定一派ハ其ノ時ヨリ今日迄引續キ杜家一派ノ家宅ヲ占領セリ
○方面ノ行動記述ヲ略ス之ヲ世間的ニ見テ果シテ妥當ナル行爲ト云
ヒ得ルヤ否ヤ支那人間ノ安全ナル民事問題ニ豫備將校ノ服裝ヲシテ皇軍

ニ同行シ事變ヲ利用シテ何等法律ニヨラス日本人カ支那人ト共ニ支那人
ノ不動産及動産ヲ不法ニ占領スルカ如キ事ハ甚ダシク皇軍ノ威信ヲ傷ケ
同時ニ滿洲國ノ内政ヲ亂スモノトバシリヲ免レサル重大不法行爲ナリ。
彼等ノ歎願書ハ何等合法的手續ニヨラス唯々舊封建時代ノ特權ヲ訴エ皇
軍ニ對シ安價ナル感謝ノ涙ヲシホツテ示スニ過キス何故ニ合法的手續ニ
ヨリ訴ヘサリシヤ眞ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ、蔡定一派ハ杜家一派ヲ陷レ
ム爲メニハ種々ナル手段ヲ講シタルモ特ニ甚ダシキコトハ民國十九年九
月杜カ蔡ノ墓ヲ發キ寶物ヲ賣却シタリト訴ヘ當時審理ノ結果却下セラレ
タルコトアリ又民國六年七月蔡ノ親書開封云々ノ事件ヲ作意シ杜家一派
ニ對シ送信夫趙子玉ヲ銃殺シタリト訴エタルコトアリ之亦問題トナラサ
ルコト判明セリ、其他事件都度三萬元五萬元二十萬元二十六元ト巨額ノ

金品ヲ送賄セリトカ墓石ヲ賣却セリトカ康熙帝ノ勅額ヲ賣却セリトカ或ハ又墓樹ヲ伐裁セリトカ次キ次キニ種々ナル訴エヲ起シ杜家ヲシテ殆ト閉口セシメ居リタルモノナリ。

一部ニ於テ同地ノ村名ニ關心シテ認識ヲ過マリ居ルモノノ如シ、然レトモ村名ハ直チニ所有權ト同一意味ヲ有セサルコトハ少シク常識ノアルモノハ皆了解スヘシ、現ニ錦縣ノ下ニ於テモ一二ノ實例トシテ第三區内ニ陳家坎村蔣家坎村ノ二村アルモ單ニ陳家蔣家ノ墓所アルニ止マリ、耕作地ハ別ニ地主アリテ所有セリ、此種實例ハ枚舉ニ遑アラス。又一面ヨリ見レハ蔡家ノ提示スル舊封建制度ニヨル書類カ有効トセハ民國十六年五月十日民國政府公布ノ處分逆產條例ニ觸レ當然當時ニ於テ既ニ沒收セラレ居ルモノナリ、之レヲ免レタルコトハ即チ杜家ノ所有タル一證查ナ

リ、即チ民國四年ノ勝訴ヲ確認セラレタレハナリ。又蔡家一派ノ訴エルカ如ク六十年前ヨリ橫領セラレキタリトセハ民國民法ノ占有權ノ章條ニ照シ二十年以上自己ノ占有ナリトノ意思ニ基キ占有シタル物權ニ屬シ當然杜家ノ所有ニ歸スヘキモノナリ。

イハンヤ二十年ノ三倍以上ノ長期ニ涉リ所有シ殊ニ國家ノ法律機關ニシテ最高法院タル大理院ノ勝訴確定セルニ於テオヤテアル。

之レヲ要スル蔡定一派ノ主張ハ現在ノ法治國タル滿洲國家ノ認め得ヘキ何等ノ合法的根據ナク徒ラニ敗訴ニ提示セル舊封建時代ノ特權ヲ今日ノ文明國ニ強ムトスルモノニ過キス此ノ非望ヲ達センカ爲メニ前記ノ如ク神聖ナル皇軍ノ行動ヲ利用シタルモノニシテ若シ万一之カ爲メニ滿洲國國民ニ對シ帝國々軍ノ威信ヲ疑ハシメルカ如キコトアリトセハ彼等ノ罪

万死ニ値スルモノナリ。而シテ舊八旗族ノ所領ヲ復舊スルカ如キ時代ニ逆行スル前例ヲ作ルトセハ三十万八旗民族ノ爲メニ三千萬民衆ノ幸福ヲ奪フノ結果トナラムモ保シ難シ。

何レニセヨ大遼河ニ此ノ問題ノ土地ヲ目標ニ毎日多數ノ移民ノ押寄せ居ル事態ニ對シテ切ニ速カニ當局者ノ御考慮ヲ煩シ度イモノテアル。

新國家ノ移民ト雖モ自他ノ共存ヲ主旨トシタル王道主義ニ基キ同時ニ合法的ナル手段ニ寄ラレムコトヲ切望スルモノテアル。

而カモ蔡家ヨリ之カ報酬トシテ關係人等ハ五百天地（約八十万坪）ノ美田ヲ無償ニテ受ケタル事實ハ一方蔡家坎村民七十戸ノ生存ヲ脅カシ此ノ棚ホタ式ノ事件ハ同地方民ト將來移住スヘキ日本人トノ間ニ未來永久ノ憎惡心トシテ殘サレルヘク現ニ關係村民ハ祖先ノ地ヲ逃避シテ訴エルニ

所ナキ哀レナル情態ニアルヲ以テ正義擁護ノ爲メ斷然代表ヲ引受ケタル次第テアル。

日滿民族カ眞ノ意味ニ於ケル共存共榮ノ爲メカクノ如キケレン的手段ニヨラス正々堂々タル親善關係ニ立脚センコト重ネテ望ムモノテアル。

昭和七年四月十四日

錦縣蔡家坎村

杜一家

代表 薦田夏治郎

亞細亞局

關機高第四八三六號ノ二

昭和七年四月二十五日

通商局

秘

關東廳 警務局長

記録付名

昭和七年五月 貳日接受



外務省 拓務局長 次官 官殿

大凌河畔ニ於ケル邦人水田經營ニ關スル紛擾

參照三月三十一日關機高第三四三一號

首題水田經營ニ關シテハ參照番號ヲ以テ既報シ置ヤタルカ其後杜鵑章ハ自己ノ所有地ヲ日本人ノ爲ニ沒收セラレタリトテ之カ狀況ヲ省長ニ陳情スルト共ニ返還交渉方ヲ要求セント該陳情書ヲ認メ

分類

來奉右ノ趣ヲ當地居住邦人薦田夏治郎ナル者ニ語リタル處薦田ハ本件ノ如キハ王道主義ヲ標榜シ建設シタル滿洲國ノ主義ニ反スルコトトモナリ將來甚タ面白カラサル現象ナリト思料シ正義擁護ノ爲之カ解決ヲ引受ケタリト稱シ別紙ノ如キ印刷物ヲ作成シ四月二十一日朝奉天發奉山線ニテ錦州ニ向ケ出發シタルカ到着ノ上ハ依田旅團長ニ面接ノ上出來得ル限り圓滿ニ解決シタシト稱シ居タリ

E-1888

0146

大凌河土地問題ノ真相

關係人	本人	蔡定氏
顧問	平佐二郎	
後見人	吉川協	
同	中村林助	
同	大久保清一郎	
同	川崎市藏	
同	喜野常雄	

大凌河土地問題ハ多數日本人ノ同地乗込ト相俟テ今ヤ重大ナル時局問題トシテ社會的ニ取扱ハレムトシテキル之カ歸趨ノ如何ハ皇軍ノ正義ト新國家ノ王道政治ノ上ニ重大ナル關係ヲ及ホサントシツツアリ又同時ニ現ニ被害ヲ受ケツツアル同地方民ノ死活問題ト

3

シテ全クノ眞剣沙汰トシテ多大ノ暗害ヲ發生セシメツツアルモノナリ

元來蔡定氏ハ舊清國時代ノ八旗族ニシテ清朝初期已ニ所謂問題ノ土地錦縣大凌河地方ニ領土ヲ有シ舊封建制度上ノ特權ヲ與ヘラレ居タル事ハ恰モ日本ニ於ケル舊幕時代ノ武士ノ所領ノ如キ地位ニアリタルモノニシテ現在蔡定一派ノ提示シツツアル證據書類ノ唯一ナルモノテアリ此種證據書類ニヨル所有權ハ認メラレサルコトニ確定セラレ居ルモノナリ

然シテ同地駐在ノ我官憲方面ニ於テモ此ノ證據書類ヲ以テ有效視セルモノノ如ク其證左トシテ現ニ毎日汽車ノ着ク毎ニ日本人ノ此ノ土地ヲ目標ニ同地ニ赴クモノニ對シテモ何等阻止ノ舉ニ出テスノミナラス寧ロ某有力筋ニ於テ移民ノ増加ヲ欲シテ居ルカ如キ

4

感ヲ抱カシメツツアル、カクシテ同地ノ住民ハ今正ニ戦々兢々ノ
裡ニ焦燥シツツアルノ状況ナリ、之ノ土地問題ハ日本人移民ノ増
加ニツレテ益々解決ヲ複雑化セシメ延テハ單ナル滿洲國內ノ一民
事事件ノ性質ヨリ更ニ各種ノ重大ナル問題ヲ惹起セムトシツツア
ルモノテアル

吾人ハ何故ニ當局者ニ於テカカル物議アル土地ニ對シテ移民ヲ今
暫ラク中止シ緊争ノ解決ヲ待ツノ舉ニ出テサルヤヲ疑ハシメルモ
ノテアル、蔡定氏一派ト杜鴻章一派トノ訴訟ハ充分審議シ盡サレ
已ニ二十年來争ヒシ事件ニシテ已ニ中華民國最高法院タル大理院
ニ於テ結審ヲ見、民國四年十二月三十日附ヲ以テ杜鴻章ノ勝訴ト
ナリ居ルモノテアルニモ不拘此回ノ事變ヲ巧ニ利用シテ杜家一族
ヲ放逐シタル重大事件テアル

本件直接ノ關係事項トシテハ前述ノ如ク已ニ民國最高法院タル大
理院ノ判決ニ於テ杜家一派ノ勝訴トナレル所ニシテ現滿洲國ニ於
テモ認メラルヘキ判決ナリ、何トナレハ滿洲國獨立當初ニ於テ已
ニ各種ノ法令公布ニ際シ特ニ否認セサル法律ハ舊法律ヲ適用スル
旨公布シ居レハナリ

先年張作霖時代奉天省單行法トシテ舊封建時代ノ特權的所有權ヲ
處理スル爲奉天全省清條局ナル一官制ヲ公布シテ逆産ヲ處分セシ
事アリタルモ杜家ノ所有地ハ杜家ノ所有權ヲ認メラレ何等ノ處分
ヲモ受ケサリシモノナリコノ制度ハ學良時代トナリテ民國十八年
廢絶トナリタリ當時ノ支那官憲ニ於テモ最早此種ノ問題ナキモノ
トシテ制度ヲ廢止セシモノナリ斯ノ如ク明白ナル問題ニ對シテ何
故ニ現在ノ如キ亂雜ナル事態ヲ惹起センカ、之ニハ前記關係諸氏

ニ於テ蔡定一派ヲ支持シ然モ次ノ如キ不法ヲ敢行セルニ基因スル
モノナリ（特ニ某方面ノ關係事項ハ記述セサルコトスル）
蔡定一派ノ巧ナル作戰ハ調査スレハスル程其大膽ニシテ且ツ細心
ナルニ驚カサルヲ得ナイ

其真相ハ實ハコウテアル昨年十二月十八日皇軍カ兵匪肅清ノ爲ニ
同地ニ行動セル際杜家一族ガ主人一人ヲ殘シテ避難セリ、越テ本
年一月九日ニ到リ蔡定一派ハ好機到レリトナシ杜家一派ヲ伏魔殿
ナリト稱シ多數ノ銃器ヲ藏セリト訴エ皇軍二十余名ヲ案内シ特ニ
平佐二郎氏ハ豫備將校ナルヲ以テ軍服ヲ着用シテ先頭ニ立チテ向
導シ杜家一派ノ家宅ヲ搜索セシモ銃器ハ僅ニ一挺出テシノミナリ
滿洲ノ地ニ於テ農家ニ銃器ノ一挺位アル事ハ何等アヤシムニタラ
サルコトナリ皇軍ハ其儘引揚ケタルモ蔡定一派ハ其時ヨリ今日迄

引續キ杜家一派ノ家宅ヲ占領セリ（〇〇方面ノ行動記述ヲ略ス）
之ヲ世間的ニ見テ果シテ妥當ナル行爲ト言ヒ得ルヤ否ヤ、支那人
間ノ單純ナル民事問題ニ豫備將校ノ服裝ヲシテ皇軍ニ同行シ事變
ヲ利用シテ何等法律ニヨラス日本人カ支那人ト共ニ支那人ノ不動
產及動產ヲ不法ニ占領スルカ如キ事ハ甚シク皇軍ノ威信ヲ傷ケ同
時ニ滿洲國ノ内政ヲ亂スモノトノソシリヲ免レサル重大不法行爲
ナリ

彼等ノ嘆願書ハ何等合法的手續ニヨラス唯々舊封建時代ノ特權ヲ
訴エ皇軍ニ對シ安價ナル感謝ノ涙ヲシホツテ示スニ過キス何故ニ
合法的手續ニヨリ訴ヘサリシヤ眞ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ、蔡定一
派ハ杜家一派ヲ陷レム爲ニハ種々ナル手段ヲ講シタルモ特ニ甚シ
キ事ハ民國十九年九月杜カ蔡ノ墓ヲ發キ寶物ヲ賣却シタリト訴ヘ

當時審理ノ結果却下セラレタルコトアリ 又民國六年七月蔡ノ親書
開封云々ノ事件ヲ作意シ杜家一派ニ對シ送信夫趙子玉ヲ統殺シタ
リト訴エタル事アリ之亦問題トナラサル事判明セリ、其他事件都
度三萬元五萬元二七萬元二十六萬元ト巨額ノ金品ヲ送賄セリトカ
墓石ヲ賣却セリトカ、康熙帝ノ勅額ヲ賣却セリトカ或ハ又墓樹ヲ
伐採セリトカ次々ニ種々ナル訴エヲ起シ杜家ヲシテ殆ト閉口セシ
メ居リタルモノナリ
一部ニ於テ同地ノ村名ニ關心シテ認識ヲ過マリ居ルモノノ如シ然
レ共村名ハ直ニ所有權ト同一意味ヲ有セサル事ハ少シク常識ノア
ル者ハ皆了解スヘシ 現ニ錦縣下ニ於テモ一二ノ實例トシテ第三
區内ニ陳家坎村蔣家坎村ノ二村アルモ單ニ陳家蔣家ノ墓所アルニ
止マリ耕作地ハ別ニ地主アリテ所有セリ此種實例ハ枚舉ニ遑非ス

又一面ヨリ見レハ蔡家ノ提示スル舊封建制度ニヨル書類カ有效ト
セハ民國十六年五月十日民國政府公布ノ處分遺產條例ニ觸レ當然
當時ニ於テ既ニ沒收セラレ居ルモノナリ之ヲ免レタル事ハ即チ杜
家ノ所有タル一證左ナリ即チ民國四年ノ勝訴ヲ確認セラレタレハ
ナリ又蔡家一派ノ訴エルカ如ク六十年前ヨリ橫領セラレキタリト
セハ民國民法ノ占有權ノ章條ニ照シ二十年以上自己ノ占有ナリト
ノ意思ニ基キ占有シタル物權ニ屬シ當然杜家ノ所有ニ歸スヘキモ
ノナリ
イハンヤ二十年ノ三倍以上ノ長期ニ亘リ所有シ殊ニ國家ノ法律機
關ニシテ最高法院タル大理院ノ勝訴確定セルニ於テヤヤアル
之ヲ要スルニ蔡定一派ノ主張ハ現在ノ法治國タル滿洲國家ノ認メ
得ヘキ何等ノ合法的根據ナク徒ニ敗訴ニ提示セル舊封建時代ノ特

權ヲ今日ノ文明國ニ強ムトスルモノニ過キス此ノ非望ヲ達センカ
爲ニ前記ノ如ク神聖ナル皇軍ノ行動ヲ利用シタルモノニシテ萬一
之カ爲ニ滿洲國國民ニ對シ帝國々軍ノ威信ヲ疑ハシメルカ如キ事
アリトセハ彼等ノ罪萬死ニ値スルモノナリ而シテ舊ハ旗族ノ所領
ヲ復舊スルカ如キ時代ニ逆行スル前例ヲ作ルトセハ三十萬ハ旗民
族ノ爲ニ三千萬民衆ノ幸福ヲ奪フノ結果トナラムモ保シ難シ
何レニセヨ大凌河ニ此問題ノ土地ヲ目標ニ毎日多數ノ移民ノ押寄
セ居ル事態ニ對シテ切ニ速ニ當局者ノ御考慮ヲ煩シタイモノデア
ル

新國家ノ移民ト雖自他ノ共存ヲ主旨トシタル王道主義ニ基キ同時
ニ合法的ナル手段ニ寄ラレム事ヲ切望スルモノデア
ル而カモ蔡家ヨリ之カ報酬トシテ關係人等ハ五百天地（約八十萬坪）

ノ美田ヲ無償ニテ受ケタル事實ハ一方蔡家坎村村民七十戸ノ生存ヲ
脅カシ此ノ棚ホタ式ノ事件ハ同地方民ト將來移住スヘキ日本人トノ
間ニ未來永久ノ憎惡心トシテ殘サレルヘク現ニ關係村民ハ祖先ノ地
ヲ逃避シテ訴エルニ所ナキ哀レナル狀態ニアルヲ以テ正義擁護ノ爲
斷然代表ヲ引受ケタル次第デア
ル日滿民族方眞ノ意味ニ於ケル共存共榮ノ爲カクノ如キケレン的手段
ニヨラス正々堂々タル親善關係ニ立脚センコトヲ重ネテ望ムモノテ
アル

昭和七年四月十四日

錦縣蔡家坎村
杜一家
代表 薦田夏治郎

亞細亞局
關機高第五六一八號ノ二

祕

昭和七年五月九日

昭和七年五月拾四日接受

關東廳警務局長

情報部

拓務次官
陸軍次官
海軍次官
陸軍省
海軍省

通商局

大凌河ニ於ケル土地問題其後ノ狀況

(參照七、四、二五高四八三六號ノ二)

1 大凌河ニ於ケル土地問題ハ已報ノ通り蔡家社家ノ爭訴ヨリ延テ邦人ノ介在トナリ紛糾ヲ重ネツツアカ縣公署ニ於テハ憲兵隊長指導員立會ノ上兩當事者會見シ左記ノ通協定ヲナシ全体的解決ハ双方長春

ニ赴キ執政ニ事件ノ内容ヲ訴ヘ其裁斷ニ依リ決定スル事トナレリト云フ

尙錦州駐在早川巡査部長ノ大凌河ニ於ケル實地調査狀況並該土地問題ニ關スル蔡定氏ノ陳情別紙ノ如シ御參考迄

記

會見願末書

五月五日午后四時ヨリ縣公署ニ於テ杜鴻章及薦田夏治郎ノ兩氏ト蔡定氏、中村林助、川崎市藏、喜野常雄及通譯ヲ伴ヒ會見セシ願末左ニ列舉ス

2 一 蔡家攻ノ内社一家カ先年偽造印鑑偽造契約書ニ依リ錦縣地方法院ニテ刑事訴訟申昨年五月六日偽造カ事實ナル事ヲ認メラレタル建物附近壹百七八十天地ノ土地ヲ事件解決迄薦田氏ニ預カル事ヲ先

方ノ要求通り之ヲ認メタリ

右土地ノ小作ハ從來ノ小作人ニ耕作セシメ杜一族カ自作セル分ハ
附近村長及副村長ト協議耕作ヲ許スコトニ手配中ノ處双方之ヲ認
メタリ

秋ノ收穫ハ被依託者ニ於テ双方立會ノ上合法的ニ處分シ其金額ヲ
銀行ニ供託スルコト

地上建物一切ハ薦田氏ニ於テ預リ其使用ハ蔡定氏ノ自由ニ任セ杜
一族ヲ入レス

今日迄ノ係争ハ右ノ各項ニヨリ双方共認諾シ全体的解決ハ薦田氏
御意見ニ依リ新國家ノ主義ニ添フヘク赴長双方出頭シテ滿洲國執政
ニ事情ヲ訴ヘ御裁斷ニ依リ決スル事ヲ約シタリ

當事件解決後薦田氏ハ土地建物供託金アル場合其供託金ヲモ加

ヘ一切ヲ執政ノ御裁斷ニヨリ認メラレタル者ニ即時引渡スモノト
ス

右ノ通此段御届申上候

大同元年四月二十九日

蔡 定 氏 (印)

別紙一

大凌河ニ於ケル土地ニ關スル狀況

(四月二十二日早川部長實地調査)

蔡定慎村ハ奉山線大凌河車站西北ニ位置シ約一邦里ノ地點ニシテ同部落戸數六十二戸ヲ有シ問題ノ墳墓ハ同部落ノ南方ニシテ小丘ノ麓ニアリ現在ハ二基ノ烏井ト其奥ニ數基ノ碑石ヲ殘在シ舊墳墓ノ跡ヲ留ムルノミナリ

問題ノ三千五百天地ニ渉ル廣大ナル土地ハ以前墳墓祭肥料トシテ皇室ヨリ蔡家ニ與ヘラレタルモノノ如ク其後現訴訟關係者タル杜家カ蔡定氏ノ夫死亡後蔡定氏ノ寡婦タルヲ奇貨トシテ横領シタル形ニテ推移シ原來蔡定氏ハ婦人ノ身ヲ以テ二十有餘年間土地取戻ノ訴訟ヲ繼續シ常ニ不利ナル立場ニ在リシヲ昨年五月頃ヨリ邦人大久保、中

5

村、吉川、川崎、喜野等介在シ蔡家ノ依頼ヲ受ケ右訴訟ヲ起シ係争中昨年九月ノ日支事變ノ爲中絶ノ狀態ニ在リシ處日軍ノ錦州入城後軍後援ノ下ニ該土地ハ蔡定氏ノ所有ニ關スルモノトシテ杜家ヨリ蔡家ニ返還セリ之カ爲杜一味ハ當時蔡ヲ隱シタルカ右ハ平佐二郎等ノ運動大ニ力アリタルモノノ如シ

以上ノ如ク土地ノ蔡家ニ歸ルヤ平佐、中村、吉川、大久保等ハ暗ニ策動シテ蔡定氏ニ對シ右ノ報酬トシテ土地五百天地ヲ軍ニ寄附セン事ヲ強要シ寄附ノ手續書ヲ作成セシメ捺印セシメタリトノ說アリ而シテ平佐、増田等ハ其後已ニ樺太ヨリ在郷軍人奉天撫順方面ヨリ鮮人ヲ招致シ内地人四十二名鮮人三十八戸老幼男子計二百二十名ニ選シタルカ現在ニ於テハ彼等ハ何等爲ス術ナク鮮人ノ如キハ生活ニ窮シ憂慮裡ニ日ヲ過シ將來ヲ案シ居ル狀態ナリ、加之平佐等カ飽迄

6

E-1888

0154

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

強行シテ内鮮人ヲシテ耕作セシメ而シテ永年小作シ居タル部民ヲ壓迫スルニ於テハ茲ニ杜家代表薦田ノ言ノ如ク一大社會問題ヲ惹起スルヤニ計難キ情勢ニ在リテ蔡定氏側ニ在リテハ右事情ニ對シ蔡氏初メ關係邦人中、川崎、古園、喜野等ノ如キ幹部連モ平佐、増田等ノ行動ニ對シ大ニ不滿ヲ抱キ例ノ寄附シタリト稱スル土地ノ如キモ集團農場タル事ヲ喜ハス財團法人トシテ將來意義アル經營ヲ欲シ居ル模様アリ又現在ノ如ク多數内鮮人來住シテ永年該土地ヲ耕作シ居タル部民ノ生活ヲ寧フカ如キハ蔡氏ノ最モ不滿トスル處ニシテ幹部川崎等ニ對シ平佐、増田一派ノ行動ニ不滿ヲ洩スト同時ニ農耕期ニモ不拘容易ニ耕作シ得サルハ實ニ遺憾ナリトテ一日モ早く安心シテ耕作方小作人ヲ督勵スル處アリシ結果現在ニ於テハ何レモ耕作シツツアリ尙蔡定氏カ差押ヘタル高粱價格現洋約二萬元ハ蔡定氏ノ許可ナ

クシテ之ヲ動カスコト能ハサルニモ不拘増田、平佐等ハ右押収高粱ヲ内鮮人食料トシテ交付セムコトヲ要求シツツアル模様ナルモ拒絕セル状態ナリト云フ

陳願書

奉天省錦縣大凌河甸子蔡家坟

旗人 蔡定氏

清國ノ革命ハ中華民國ノ建設トナリ清朝時代ヨリ祖先四十二歴代ニ亙ル墳墓地廟堂寶物及遺物附屬財産並祭田ノ悉ク惡奴墳丁杜家一族等ノ爲ニ横領セラル之カ返還ヲ求ムヘク中華民國元年十一月四日錦縣地方法院ニ向ケ之カ訴訟ヲ提起セリ越テ翌二年四月右審議ノ結果正統タル蔡定氏ノ有ニ歸スヘキモノト判定セラレ當局合議ノ結果現地實測ノ事ニ決シ檢察警察署長縣長ヨリハ書記係員出張シ現地ニ於テ土地台帳ト對照セラレ關係當事者四十餘名立會ノ下ニ二日間ニ亙リ漸ク八十四畝タケノ測量ヲナシ得タル始末ニテ何分斯ル廣漠タル

地域ノ測定ハ到底少人數ニテハ速モ短期日ニ完成ハ望ムヘクモアラス兎モ角一應歸錦更ニ從事員ヲ増加シ大規模ノ組織ノ下ニ再ヒ實測ニ取り掛ルヘシトテ引揚タル處其後何等實測ニ着手スル模様ナキヲ以テ屢々之カ實施ヲ請求シタルモ言フ左右ニシテ應セス已ムナク更ニ高等法院北京代理院奉天最高法院奉天省長公署等へ控訴上告嘆願等ヲ繰リ返シ續行中ノ處民國十年八月三日奉天ニ於テ突然檢察局ニ何等ノ理由ナク三日間留置セラレテ錦縣ニ護送其儘同年八月六日ヨリ同十二年四月十七日迄錦縣監獄ニ投獄セラレタリ其後出獄シ不可解ナル幾ノ投獄事件等ニ付内偵セシ處前知事王某ハ社ヨリ收賄シ以テ私ヲ故ナク投獄シ事件ヲ有耶無耶ノ徑ニ辨リ去ラントセシ事實判明セリカクノ如キ怪事實白晝公然ト行ハレ居ル始末ニテ確實ナル理由ヲ具備セル訴訟ニ對シテハ却テ曠日

瀾久何等公正ナル判定ヲ見ル能ハス實ニ怪疑至極如何ニモシテ徹
 底的ニ黑白ヲ明ナラシメムト民國十九年三月六日更ニ錦縣地方
 院ニ對シ刑事訴訟ヲ提起シ一方吉川協、中村林助ノ兩氏ニ之カ
 完全ナル解決方ヲ依頼シ其達成ヲ專心セシモ杜等ノ魔手ハ八方ニ
 擴カリ居ルタメ意ノ如ク進捗セス中華民國ノ建設以來東北四省ノ
 軍閥ハ只自己ノ私腹ヲ肥ス事ニ而已汲々トシテ行政司法ノ如キハ
 只賄賂ノ厚薄ニヨリ處斷セラレ此ノ伏魔殿ハ如何ナル公正ナル理
 由アルニモセヨ金力ノ左右スル處トナリ如斯腐敗政治ノ下ニ良民
 ハ全ク忍ビ難キ塗炭ノ苦ミニ喘ク而已折柄今回ノ滿洲事變突發シ
 テ光輝アル皇軍ノ錦縣ニ入城セラルルニ及ンテ之迄混沌トシテ正
 義節操全ク地ヲ拂ヒ殆ト弱肉強食ノ狀態ナリシ惡風潮ハ拭フカ如
 ク一拂セラレ秩序整然更生ノ樂天地出現スルニ至リシハ實ニ闇夜

ニ耀光ヲ拜スルカ如ク一同俱ニ蘇生ノ想ニ欣奮スル所ナリ
 數十年ノ水キニ亘リ惡奴墳丁杜等一味ト正義ノ爲戰ヒツツ今日ニ
 及ヒ偶々訴訟費用缺乏又衣食ニ窮シ絶食三日ニ及シ事モアリ願光
 ノ聖靈ヲ慰ムヘキ祭祀モ亦隨テ意ノ如クナラス一老婆ノ身トシテ
 全ク心狂ハシキ悲境ニ沈淪セシ際吉川中村氏等ノ義憤的後援ニ救
 ハレテ爰ニ數年ナラサリキ今同愈々多年ノ願望達セラレ先墳墓ノ
 地祭田等ノ返還ヲ受ケ得タルハ之全ク正義ヲ愛好セラルル嚴肅ナ
 ル皇軍ノ御威德ノ賜ニ外ナラス衷心感謝ニ堪ヘス此ノ御鴻恩ハ世
 々子孫ニ傳ヘテ深ク肝銘措カサル所ナリ
 杜等一味ハ横領等ノ財産ニヨリテ是迄一墳丁ハ變シテ巨萬ノ富豪
 ト化シ哈爾濱、奉天、營口、天津等ノ都會地ニ夫々大店舗ヲ有シ
 黑龍江省ニハ龐大ナル土地ヲ買入レ奉山線ノ各所ニ廣漠タル土地

ヲ購入シ義縣ニハ有數ナル雜貨商ヲ經營シ管内大凌河甸子ニハ多
數ノ家屋ヲ建造シ又油房酒舖質店ヲ營ミ錦縣ニ於テハ同様幾多ノ
家屋ヲ造築シ皮革商雜貨商質舖等屈指ノ店舖ヲ有シ斯ノ如ク巨萬
ノ富ヲ築キ上ケタルハ全ク惡辣ナル犯罪ニヨリテ得タル不純ノ結
晶ニ外ナラス現今彼等ノ財産ハ優ニ大洋二千萬元ヲ超過セリト衆
口自ラ一致スル所ナリ云々

以上

13

亞細亞局

關東局第六七九六號ノ二

昭和七年六月一日

關東廳警務局長

外務部 次官 官殿
拓務部 次官 官殿
陸軍省 次官 官殿
海軍省 次官 官殿
大藏省 次官 官殿
農林省 次官 官殿
文部省 次官 官殿
司法省 次官 官殿
內務省 次官 官殿
逓信省 次官 官殿
文相 官殿
大總理 官殿

通商局

大凌河ニ於ケル水田經營問題其後ノ狀況

奉山線大凌河地方ヘノ移民ハ屢報ノ通り當初如何ニモ有望ナルカ如
ク喧傳セラレタルカ該土地ノ所有權ニ關シ察、杜爾蒙間ニ確認爭ヲ
生シ邦人利權墮落ヲ混ヘ益々紛糾ヲ來シ容易ニ解決ス結局土地問
題ノ解決スル迄ハ耕作不可能ノ狀態ニ陥リ茲ニ鮮農三十八家族二百

昭和七年六月

六日接受



E-1888

0:58

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

二十一名（一）家族七名ハ病氣ノ爲現地ニ殘留スルハ五月七日再ヒ奉
 天ニ引揚ケタルニ韓太郎農移民ニ於テハ引續キ殘留シ居リタル處在
 錦州中根領事代理ハ之カ解決ニ務メタル結果五名ハ錦州遼兵隊馬丁
 ニ四名ハ第八師團經理部大工ニ二名ハ錦州ニテ大工ヲナシ五名ハ奉
 天ニ歸還シ電工トナルコトナレリ殘リ十二名中ノ十名ハ錦州東北
 方金家屯ニ於テ土地ノ借入レヲ爲シ野菜其他速成的栽培ニヨル農業
 ヲナス事ニ大體解決セリ尙本件解決ニ就テハ軍部ノ好意ニヨルモノ
 多ク金家屯土地借入ニ對シテモ十中八九承認セラルモノノ如ク目
 下殘留セルモノハ自衛團長駒木某及前記鮮人一家族七名ノミナリト
 御參考迄

亞細亞局
 關機高第五七九〇號

昭和七年五月十日

通商局

秘書
 事務次長

外務省
 事務次長

官官官
 殿殿殿

關東廳警務局長

昭和七年五月拾六日接受

大湊河ニ於ケル水田經營其後ノ狀況

大湊河ニ於ケル水田經營計畫者ハ已報ノ通先ニ韓太郎リ在郷軍人
 四十二名奉天撫順等ヨリ鮮人三十八戸老幼男女二百二十一名ヲ移
 住セシメタルカ其後同土地問題ノ解決面白カラサルモノアリ延テ
 移住鮮農等モ豫期ニ反シ水田經營ヲ爲スコト不能移住以來徒食今

190

日ニ至レルカ最近ニ於テハ全ク生活ニ窮シ不穩ノ形勢アリ之カ爲
 錦州ヨリ憲兵警察官出張シテ慰撫シ不取敢杜家所有ノ高粱三石ヲ
 借入レテ給與シ杜家代表薦田夏二郎 蔡家代表川崎市藏、鮮農移
 民周旋者坂本三太郎、鮮農代表二名立會ノ上善後策ニ付協議シ他
 ニ適當ナル土地ヲ物色シテ水田經營セシムヘク努メタルモ匪賊橫
 行ノ爲移住困難ナルモノアリ且農耕資金ハ勿論用具等ナク到底現
 狀ノ儘無爲徒食現地ニ留ルコト不可能ナルヲ以テ已ムヲ得ス再ヒ
 撫順奉天ニ移ルケシムルコトナレリトノ事ナルカ但韓太移民ハ
 本年度中ヲ支ヘ得ル資金ヲ有シ居ルモノノ如ク一戸二町歩以上ノ
 平均ニテ小作現場ニ留マルヘク近ク土地借入レ細目協定ヲ地主側
 ト協議決定スル豫定ニテ折衝中ナリト御參考迄

分類

外務大臣
 芳澤謙吉

殿

樺太公使第七号

昭和七年四月二十日

在錦州出張員

外務書記生 中根道介

昭和七年四月二十日附本官 外務省事務課宛

樺太公使第七号 送付

件名

大連市東區回春街ニ在リタル物件



寫

機密公領第五號

昭和七年四月二十七日

在錦州

外務書記生中根直介

在奉天

總領事代理 森島守人殿

大凌河集團農場ニ関スル件

本件ニ関シテハ本月二十日附機密合第一七五號
貴信ヲ以テ御申越ノ次ヤモアリタル處、從來當事
者双方頻リニ官憲ヲ仲介ニ立テリトシテ極力直
接折衝ヲ回避シ来レルニ對シ本官トシテハ成ル
在牛莊日本帝國領事館

ベク之ニ觸ル、ヲ辭ケ單ニ双方ノ主張ヲ周置クニ
止メ来レルガ杜鵑章ノ代理人薦田夏治郎ハ遂
ニ錦縣長ヲ動カシ同縣長ヨリ四月二十五日附公文
ヲ以テ當方ノ立會調査ヲ求メ来タルニ付翌三六
日事件ノ内容ヲ熟知セル第八師團司令部附前
混成中隊三十八旅團附田中中佐他用ヲ以テ來訪セ
ル際、右縣長ノ公文ヲ内示スルト共ニ本問題ハ其
ノ解決如何ニ依リテハ單ニ社會問題タルニ止ラ
ズ國軍ノ威信ニモ關シ將來滿鮮統治上ニモ重
大ナル影響ヲ及ボス虞アル機微ノ事件ナル處、軍
部ノ方針如何ト質シタルニ對シ同中佐ハ本件ハ
全ク蔡定氏周圍ノ者ニ誤ラレタルモノニテ事態ノ
明瞭トナルト共ニ依田旅團長モ大イニ平佐某ノ

不信ヲ責ム平佐亦其ノ輕率不明ヲ取テ本問
題ヨリチヲ引クニ至レルカ今後ハ當事者双方
至急ノ根本タル土地ノ歸屬及小作料等ノ問題ヲ
解決セシムルト同時ニ關係者ヲレテ自己ノ責任
ニ於テ能ク限リ移民等ニ對スル善後策ヲ講セ
シムルハ外ナカルヘルトハ語レル折柄偶々茲側ノ川崎
某出頭シタルヲ以テ田中中佐ハ個人ノ資格ニ於テ同
人ニ對シ至急薦田ト會見親シク解決方法ヲ協
議スヘルト勸告シタルカ同日夕刻薦田本官ヲ
來訪セルモ依然兩者會見ノ模様ナカリシニ依リ本
官ハ田中中佐ノ川崎ニ勸告シタル趣旨ヲ傳フ
ルト共ニ日本官憲トシテハ事件ノ根本ニ解ルハ
コト困難ニシテ直接兩者會見ノ仲介ヲ爲スモト
モ自然好マレカラザルニ付大至急當事者自ラ會
合ノ機會ヲ作り解決策ヲ講スベク斷シテ不謹
慎ナル言動ヲ以テ累ラ大局ニ及ボスベカラザル旨附
言シタル處之ヲ諒承シテ辭去シタル尙當所ヨリ
ハ是ヲ先大凌河農場居住邦人戸口調査ヲ
兼テ救済視察ノ爲メ警察官ヲ出張セシメタルコ
トアル處前記縣長ヲ立會調查ヲ要求ニ関
シテハ如何ナル態度ヲ執ルヘキヤ貴見何分ノ義
決回示相煩度此段報告旁々申進ス

在牛莊日本帝國領事館

寫送附先

外務大臣
在牛莊領事

通商局

亞細亞局

機密第三〇四號

昭和七年五月五日

在奉天

總領事代理 森島 守

外務大臣 芳澤 謙吉 殿

昭和七年五月五日附在錦州中根書記生宛機密第四號寫送付

件名

一、大凌河集團農場ニ關スル件

分類

在奉天日本總領事館

機密第四號

昭和七年五月五日

在奉天

總領事代理 森島 守 人

在錦州

書記生 中根 直介 殿

大凌河集團農場ニ關スル件

本件ニ關シ四月二十七日附機密公領第五號貴信報告ノ次第有之閱悉
右貴信後段錦縣長ヨリ要求ノ立會調査ニ付テハ本件ノ極テ複雑ニシ
テ困難ナル事實關係ニ顧ミ成ルヘク問題ノ渦中ニ捲キ込まルルコト
ナキ様慎重ノ態度ヲ持シ體好ク貴官ノ立會調査ヲ拒否セラレ寧ロ當

在奉天日本總領事館

E-1888

0153

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

事者間ノ自然解決ニ委ネラルルコト得策ナリト思考スルニ付右様御
承知相成度右卑見不取敢回答ス
本信寫送付先 外務大臣 牛莊領事

在奉天日本總領事館

E-1888

0164